

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホーム すずらん 吉番館		
所在地	佐世保市大宮町43番地16号		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、入居者の方々が日々楽しく、安全な生活を送れるよう支援しています。ドライブ、買い物などの外出や、季節の行事ではバンド演奏の慰問など地域の方や外部の方々との交流する機会も作っています。施設内ではレクレーションや園芸教室を取り入れ、毎日穏やかに過ごしておられます。施設周囲や居室にも園芸教室で育てた花々を飾り季節感を感じてもらえるよう工夫をしています。運営推進会議を開催し、行政・町内・ご家族の意見も取り入れています。健康面では24時間医療連携体制や訪問看護で、介護・医療両面の充実化を図り、体調を管理しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中に建ち、近くに商店や病院などもあり便利な立地である。「いつまでも自分らしく暮らしたい」との理念を全職員が日々の支援に繋げ、利用者一人ひとりの好きな物、したい事を把握している。職員が利用者に声掛けを常に行い、少しの変化や状態をキャッチし検討するなど、本人本位の介護実践に取り組んでいる。また外部の講師による園芸教室で育てた花の寄せ植えを、事業所内や居室の出窓に置き、季節感や花のある暮らしに温かみを感じることができる。看取りに関しては、かかりつけ医の24時間連携や訪問看護ステーションとの連携で、今年度も複数の実績があり、本人・家族等の安心に繋がっている。更に、災害時に備え毎日避難訓練を実施していることは、事業所の大きな特徴であり強みである。町内会や運営推進会議、地区の祭りなどを通して地域との交流も年々広がり、地域の中に浸透している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のカンファレンス・勉強会・介護計画を検討し、いつまでも自分らしく暮らしたいという理念を大切にしていってつなげていく。	開設時からの理念である「いつまでも自分らしく暮らしたい」を基に、全職員が本人が希望する生活を継続できるための支援に努めている。本人の好みやペースを大切に、その人らしく過ごせるよう支援につなげている。更に会議や勉強会などで、理念を確認し浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域・行政・家族の関係を強めていき、ドライブや買い物など週一回日常的に地域の方々と交流しています。	町内会に加入し回覧板を回したり、町内清掃などに参加している。ボランティアのバンド演奏やフラダンスなどの受入れ、地区の夏まつりには利用者で参加し、地区住民と交流している。外出支援の散歩や買い物、ドライブの途中にも、挨拶を交わし日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報交換をし、他の施設との交流を含め意見交換をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、既定のメンバーで開催している。会議では家族からの要望を検討したり、地域や行政の方からの情報を聴くなど有意義な意見交換の場となっている。	年6回開催し、包括支援センター職員はじめ、利用者、家族、地区住民代表ほかの参加である。事業所の状況や職員研修内容、行事等の報告のあと、民生委員などから地区の高齢者や近隣住民の状況など情報交換が行われている。災害時に事業所を一時避難場所にするなど反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を説明し、疑問がある時は長寿社会課や地域包括支援センターに問い合わせ意見を聞いている。	市の担当者とは、窓口や電話で相談や助言など連絡を取り合い、担当課職員の訪問もある。市主催の研修会などには、職員は勤務シフトを変更し出席している。事業所の空き状態の問い合わせなどあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人に危険がある場合、他に代替の手段がない時に限り拘束を行っているが十分に気を配りケアに取り組み、モニタリングしながら解除に向けて検討を重ねている。	身体拘束廃止の研修を受講したあとに、事業所内にフィードバックしている。転倒の危険性がある利用者には、家族に説明し、センサーマットや鈴を付けることに同意を得ている。解除に向けて一時的に取り除くなど検討している。管理者はスピーチロックも都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	専門的な研修に参加している。情報を持ち帰り、スタッフの勉強会を通して情報を共有し虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	正しい情報を学び、不安や疑問点に関しては十分に説明をし、専門家に相談しながら支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約・解約については十分に納得いくまで説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出された意見についてはできるだけ参考にし検討している。各玄関に意見箱を設置している。	契約時に苦情受付窓口など説明し、玄関先に意見箱を設置している。普段の面会時には職員が家族に声掛けし、気づいたことや要望等を聞き取っている。すずらん便りを発行しており、遠方の家族には郵送し事業所の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスや運営に関する職員の意見はリーダーを中心に話し合いの場を設け反映させていく。個別に時間を取り話を聞くなどしている。	日々の支援の中や、職員会議などで職員は意見やアイデアを出している。支援方法などの検討はその都度現場でミーティングを開いている。ユニット間の交流は盛んで、職員のコミュニケーションも良好である。シャワーマットやチェアの購入など職員の要望を反映している例も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては専門家の意見を参考にしながら、勤務者の状況を把握し向上心につなげていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会に参加したり、職員同士ケアの勉強をし、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村やグループホーム協議会の主催する研修や勉強会に参加したり、他施設の運営推進会議に出席する等、それを基に施設内で報告し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー・担当医・家族にこれまでの生活歴を聞き、スタッフが内容を理解して本人が安心するように声かけを十分にして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事について、担当者との連携を深め、スタッフを含め家族に対して理解していただけるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的な意見も取り入れサービス利用の優先順位を決め、どう判断し動くのかを見極めサービスに対応し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に対して時間を共有し、出来るだけ話を聞きお互いの心が通じ合うようにコミュニケーションを取り関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かい点でもお互いが歩み寄れるように、家族と本人の連絡を大事にしてお互いの絆を見極めて本人を支えていく関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の職場や友人の訪問は家族の同意を得て面会をされている。また、町内の夏祭りに出掛けた際には馴染みの人たちと交流できるよう支援している。家族の協力を得て冠婚葬祭や墓参りにも出掛けるなど関係継続の支援に努めている。	初めての訪問者は家族に報告している。以前住んでいた町内の方が数人で民生委員と一緒に訪ねてきたり、月に数回同僚だった人の訪問があるなど、馴染みの人と繋がっている。家族の協力を得て、結婚式、法事、葬式に出掛ける利用者もいる。また自宅近くをドライブするなど大切な人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや工作・合唱など一緒に楽しめることをスタッフが検討し、穏やかに過ごせるよう支えあって支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャー・担当医などと連携を図り、検討しながら施設でできる事があれば相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフと入居者がゆっくり会話する中で発せられる本人の思いや希望を支援に繋げていく。その時の要望を叶える為にスタッフ間で連携し、支援している。	職員は、利用者の小さな表情の変化も見落とさないようアンテナを張り、本人の思いを情報共有して支援を行っている。難聴の利用者には、耳元で大きくゆっくり話し、発語困難な場合は、幾つかの中から選択してもらうなど、本人の思いを汲み取るよう努めている。ただし、情報が申し送りなどでの口頭のみであり、記録に残っていない。	本人をより深く知るためにも、これまでの生活歴や家族や関係者から得た情報を記載したフェイスシートなどを作成し、日常の会話などから得た本人の新たな情報を追記し、職員間の情報把握や共有につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族・本人・ケアマネージャー・医療機関等より情報を収集する。入居前の面接により本人・家族からの聞き取りや施設からの情報提供表などを見て、スタッフが共通で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体の状況に応じて見守り・介助を行っている。これまでの経験や残存機能を生かせる生活環境作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の周辺症状や問題点は独自の介護計画を個別に作成し、スタッフ全員で情報を共有し、援助方法などを出し合い検討している。場合によっては家族や専門医、訪問看護の看護師に報告、相談し指示やアイデアをいただくようにしている。	短期6ヶ月、長期1年の目標を立て、月1回ケアの具体的な実施状況、課題の検討などを行っている。家族等の訪問時に要望や意見を聞き、計画作成後に同意を得ている。入退院後や変化があれば、医師や看護師の意見も取り入れ変更し、短期目標期限近くになると、家族や担当者等が話し合い、現状に即した計画となるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者の様子、行動、発言など詳しく記入し、対応の仕方も成功した例などをスタッフで共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	広い範囲の方と交流できるよう、外部から講師に来ていただき園芸教室を毎週実施している。支援サービスに関しては家族と話をする時間を取って進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日はドライブや買い物に参加。地域の有志によるバンドに合わせ歌をうたうなど楽しい時間を過ごされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回の定期受診や往診により入居者は安心されている。週に一回訪問看護ステーションからの訪問があり、医師と連携している事は家族・入居者の安心に繋がっている。	以前からのかかりつけ医を継続しており、家族が都合がつかない場合は職員が対応している。受診結果の報告を互いに行い、情報を共有している。2週間毎に協力医の往診があり、更に週1回訪問看護師が訪れており、24時間医療連携で安心した適切な医療が受けられる体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師による健康チェックをしていただいているがその際、スタッフが不安や疑問に思っている事を相談し、指示やアドバイスをいただき的確な支援や指導を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と24時間連携を行って急変時の対応や相談にのっていただいている。入院先のソーシャルワーカーとは常に情報を交換している。スタッフは入院中も着替えや必要な物を持って様子を見に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は特に家族との連絡を密にしている。説明を十分に行い、家族の心情を察しながら家族が希望されると終末期ケアや看取りも行なっている。	重度化した場合や看取り対応の指針と同意書がある。利用者の状況や家族の心情に応じ、医師の説明と家族、看護師、管理者、職員が十分に話し合いを重ね、今年度も4人の看取りを行っている。事業所は家族が付き添う場合は、プライベートや安心して過ごせるよう配慮し、職員も本人・家族に寄り添い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や急変した場合は、すぐに主治医へ報告し指示を仰ぐ。スタッフは消防署より応急手当や心肺蘇生法・AEDの使用方法などの訓練や講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月～金は避難誘導・緊急通報・初期消火等の訓練を毎日行なっている。年に2回、消防署員の方に来設していただき訓練指導もしていただいている。	日曜日以外は毎日、自主避難訓練を行い、各居室前には在室の有無が確認できる物を掛け、誘導確認している。また年2回消防署立会いで夜間想定避難訓練を実施しており、水や食料などの備蓄もある。地区防災訓練に参加し、消防団との連携も検討している。ただし訓練時の記録はあるものの反省点や気づきの記載が少ない。	消防署員によるプロの気づきやアドバイスを、今後役に立つため記録に残すことが望まれる。また、持ち出しリストの整備や自然災害時の訓練の実施、及び町内会と消防団との連携を深め、地域の協力体制が更に強まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築いていく為声かけを十分に行なう。入居者の意向を否定せず傾聴し、気持ちを受け入れ思いを共有する。	職員は利用者をトイレ誘導する際、羞恥心に配慮し、周囲に聞こえないよう声掛けしている。利用者同士の揉め事では仲裁に入り、席を替えて穏やかに過ごせるよう配慮している。職員は守秘義務の誓約書を提出している。ただし、職員によっては利用者への声掛けや対応に尊厳を重視した支援であるか検討が必要である。	支援に忙しい中であっても、利用者への声掛けや接し方、対応には利用者の人権を尊重する姿勢が必要と考える。事業所で再度振り返り、互いに注意し合える組織作りを含め取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の個性を見極め、判断し、常に暖かい言葉とスキンシップを心がけている。その中で希望を実現できるよう働きかけて支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務が優先することがないように入居者の意向を優先している。入居者一人一人の個性や生活史、環境を理解して相手の立場にたつてのコミュニケーションを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族同意のもと、施設へ近隣の理・美容室が来設している。行きつけの美容室を希望される入居者には継続して利用していただいている。日常の中ではスタッフが身だしなみやオシャレに協力していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方にもできる範囲で手伝ってもらっている(テーブル拭き、下ごしらえ、簡単な配膳、など)スタッフも入居者と同じテーブルで食事し、和やかで楽しい食事時間を過ごされている。	3食、職員が献立を作り、調理して提供している。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、話しながら食べている様子が窺える。利用者ごとの嗜好を把握し、ミキサー食にも対応している。ドライブでは食べたい物を買って食べたり、正月や雛祭りではおせちやちらし寿司などが食卓に並び、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の判断で何らかの栄養が不足している場合は個別に補助食品を足したり経過観察対応をしている。個別に摂取量を記録し、バランスを考慮した上で個別量を調整している。飲水の時間を設けできるだけ摂取していただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ずつ洗面所へ誘導し口腔ケアを行なっている。口腔内の状況に応じてスポンジブラシを使用する場合もある。義歯の方は夕食後洗浄液につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちが落ち着かなくなれたり、尿意が解かれる方は声かけをしてトイレ誘導する。できるだけ自立できるようにスタッフも排泄のパターンを把握する。	飲み物を飲む時や食事前に声を掛け、トイレへ誘導している。布パンツを使用し自立している利用者もいる。職員は利用者が現状を継続するよう排泄の支援に努めている。夜間はポータブルトイレやオムツを利用している利用者もあり、臭いが籠らないよう職員は配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂っていただく。軽い体操や繊維の多い飲食物(バナナ、牛乳、ココアなど)で便秘の予防に取り組んでいる。排泄チェックを行い、個人個人のリズムを把握する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は手の届かない所を支援し、その他はゆっくり入浴を楽しんでいただけるように見守りしている。夏場など入浴日以外に希望されたり、便失禁等で入浴が必要な場合は、入浴日や時間を変更するなどして調整している。	週2回の入浴を支援している。夏場でも浴槽に浸かってリラックスできるよう配慮している。拒否がある利用者には声掛けを工夫しており、シャンプー・リンスは好みの物を使用したり、湯温も好みに合わせている。寝たきりの利用者には訪問看護師が週2回、入浴介助に訪れており、シャワー浴にて清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間の流れに合わせ、居室内、身の回りに気を配り、気温の変化や室温を考慮し、気持ちよく休んでいただけるように支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者がどんな薬を内服されているのか、スタッフも日頃から内服薬説明書を確認し把握するようにしている。セット時や内服介助時には誤薬がないよう、チェック体制を二重、三重にして気を付ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を把握し、歌を唄ったり、折り紙を折ったり、天気の良い日は散歩や外気欲をしている。縫い物、塗り絵、食事の下ごしらえや準備、洗濯物たたみなど声かけして促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ入居者の希望を尊重し支援する。週一回交代で、ドライブや買い物に行き、思い出の場所や行きたい所へ出掛けている。行政の方や運営推進会議で佐世保の行事などを聞き参考にしている。季節により花見をしたり、近所の夏祭りに参加する。	毎週火曜日にドライブを企画し、近郊数ヶ所のショッピングセンターに出掛けている。季節のいい時期には玄関のベンチに座り、桜を眺める利用者も多い。またバルコニーでも外気浴も支援している。外出の希望は当日の朝に尋ねて、支援するよう努めている。夏には夕方から夏祭りに出掛け楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一回、金銭の内容を家族に報告している。ただし買い物で希望される方についてはお金を所持していただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はできるだけ本人に取り次ぎ出ている。手紙の返事を書く事は困難であるが、家族からの手紙はとても喜ばれ心の支えになっている。内容を読み聞かせたり、部屋に飾って家族の存在と絆を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁やボードは季節感を感じてもらえるように飾り付けをしている。天窓は布カーテンにより日差しを調整し、居室の出入り口はドアの代わりに落ち着いたあるカーテンにして居心地良く過ごせるよう工夫している。	様々な季節の花をテーブルや棚に飾り、壁飾りと共に季節感がある。天窓からやさしい光が差し込むリビングは、利用者が雑誌や新聞を読んだり、ぬり絵やごみ袋作りなど思い思いに過ごしている。朝、職員が掃除や換気を行っており清潔である。料理の匂いが家庭的であり、職員は利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファではテレビ視聴や、仲の良い入居者同士で談笑されたりしている。また別のスペースでは新聞や雑誌を読まれたりと自分に合った居場所を工夫され過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にあらかた必要な物は自宅より持ってきていただき、少しでも違和感をなくし生活ができるよう支援している。入居後、必要な物があれば家族に相談して用意してもらったり生活感が出るように工夫している。	居室は畳の間とフローリングの部屋があり、ベッドとクローゼットを設置している。自宅から仏壇やソファ、テレビ、鏡台など馴染みの家具、小物、家族の写真等が持ち込まれている。出窓には、園芸教室で育てた花の寄せ植えを置き、温かい雰囲気がある。毎朝、職員が掃除や換気を行い、清潔で寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事は自立していただき、危険性がある場合はしっかり見守って対応している。できる事やわかる事が減ってきてても安心して生活が継続できるよう工夫しながら支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホーム すずらん 貳番館		
所在地	佐世保市大宮町43番地16号		
自己評価作成日	平成28年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、入居者の方々が日々楽しく、安全に生活を送れるよう支援しています。ドライブや買い物などの外出では地域の方と交流する機会も作っています。施設内では、レクレーションや園芸教室を取り入れ、毎日穏やかに過ごされています。施設周囲や居室にも園芸教室で育てた花々を飾り、季節感を感じてもらえる工夫をしています。健康面では、24時間医療連携体制や、訪問看護で介護・医療両面の充実化を図り体調を管理しています。スタッフ一同、入居者お一人お一人の個性を大切に、家庭の暖かさを感じていただけるように優しさと思いやりを持って支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のカンファレンスや勉強会、介護計画を検討し、いつまでも自分らしく暮らしたいという理念を大切に繋げていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域・行政・家族との関係を強めていき、ドライブや買い物など週1回出掛け、日常的に地域の方々と交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報交換をし、他の施設との交流を含め意見交換をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、既定のメンバーで開催している。会議では家族の要望や希望を検討したり、地域や行政の方より情報を得るなど、有意義な意見交換、情報収集の場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を説明し、疑問がある時など長寿社会課や包括支援センターに問い合わせ、意見を聞いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人に危険がある場合、他に代替の手段がない時に限り身体拘束を行なっているが、十分に気を配ってケアに取り組み、モニタリングしながら解除に向けて検討を重ねている。スタッフは拘束のない支援を理解しており、全員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	専門的な研修に参加している。情報を持ち帰り、スタッフの勉強会を通して情報を共有し虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	正しい情報を学び、不安や疑問点に関しては十分に説明し、専門家に相談しながら支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際に契約・解約については十分に納得いくまで説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日常で出た意見や要望はできるだけ参考にする。各玄関先に意見箱を設置し、スタッフへ直接伝えにくい場合は利用していただく。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関するスタッフの意見は、月1回のカンファレンスやリーダーを中心に話し合いの場を設けて反映させていく。個別に時間を作り、話を聞く。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては、専門家の意見を参考にしながら勤務者の状況を把握し、向上心に繋げていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会に参加し、スタッフ同士ケアの知識や実力を高めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村やグループホーム協議会の主催する勉強会や研修に参加したり、他の施設の運営推進会議に参加するなどし、それを基に施設内で報告し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー、担当医、家族にこれまでの生活歴を聞き、内容を理解した上で、本人が安心するように声かけを十分にしながら関係作りに努めていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事について担当者の連携を深め、スタッフを含め家族に対して理解していただけるよう関係作りに努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的な意見を取り入れサービス利用の優先順位を決めて、どう判断し動くのかを見極めてサービスに対応し努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に対して時間を共有する中で、できるだけ話を聞きお互いの心が通じ合うようにコミュニケーションをとり、関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かい点でもお互いが歩み寄れるように、家族と本人の連絡を大事にしお互いの絆を見極めて、共に本人を支えていく関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の職場、友人の訪問は、家族の同意を得て面会されている。地域の夏祭りに出掛け馴染みの方との交流する機会を作るよう支援したり、家族の協力のもと、冠婚葬祭や墓参りに出掛けるなど関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフはレクリエーションや工作、歌など一緒に楽しめることを検討し、穏やかに過ごせるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャー・担当医などと連携を図り、検討しながら施設でできる事があれば相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフと入居者がゆっくり会話する中で発せられる、本人の思いや希望を支援に繋げていく。その時の要望を叶える為に、スタッフ間で連携し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・本人・ケアマネージャー・医療機関等より情報を収集する。入居前の面接により本人・家族から聞き取りや施設からの情報提供表などを見て、職員が共通で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体の状況に応じて見守り・介助を行なう。入居時に家族・本人・ケアマネージャー・医療機関等より情報を収集する。残存機能や生活歴を考慮し、これまでの経験を活かせる生活環境作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の周辺症状や問題点は、その都度独自の介護計画を作成し、スタッフ全員で情報を共有、援助内容を検討して。場合によっては、家族や専門医、訪問看護の看護師へ報告・相談し、指示やアイデアをいただくようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の様子、行動、発言等を詳しく記入している。対応の仕方も、成功した例をスタッフで共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	広い範囲の方と交流できるよう、外部から講師に来ていただいている。園芸教室は毎週実施しており、支援サービスに関しては家族と話をする時間をとり進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日の外出(ドライブ、買い物等)へ交代で参加する。地域の有志による慰問ではバンドの演奏に合わせて歌を唄うなど楽しい時間を過ごされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の定期受診や往診により入居者は安心されている。週に1回、訪問看護ステーションから訪問があり、医師と連携していることは家族・入居者・スタッフ共に安心に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護による健康チェックをしていただき、スタッフが不安や疑問に思っている事に対して相談し、指示やアドバイスをいただく事での確かな支援や指導を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院と24時間連携を行っており急変時の対応や、相談にのっていただいている。入院時には入院先のソーシャルワーカーと常に情報を交換している。スタッフは入院中も着替えや必要な物を持って様子を見に行ったりする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は特に家族との連絡を密に行っている。説明を十分に行ない、家族の心情を察しながら家族が希望されると終末期ケアや看取りも行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はすぐに主治医へ報告し指示を仰いでおく。消防署より応急手当や心肺蘇生法、AEDの使用方法などの訓練も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月～金は避難誘導・緊急通報・初期消火等の避難訓練を毎日行なっている。年2回、消防署より来設いただき訓練指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい人間関係を構築するために声かけを十分に作る。気持ちを否定せず、意向や思いを共有する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々の個性の違いを判断し、常に暖かい言葉とスキンシップを心がけている。その中で希望を実現したり、できる事ややりたい事を叶えられるよう働きかけていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務が優先することのないよう、入居者の意向を優先している。入居者一人一人の個性、生活史や環境を理解して、相手の立場にたつてのコミュニケーションを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族同意のもと、施設に理・美容室が来設している。行きつけの美容室等がある方については入居後も継続して利用していただいている。イベント時には女性の入居者はスタッフにメイクをしてもらい参加されるなど、日常的にオシャレや身だしなみに協力して		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方にもできる範囲で手伝いをお願いしている(テーブル拭き、下ごしらえ、簡単な配膳・下膳など)スタッフも入居者と同じテーブルで食事をし、和やかな雰囲気作りを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の診断で何らかの栄養が不足している場合は個別に補助食品を足すなど経過観察対応している。毎日個別に摂取量を記録し、バランスを考慮した上で個別量を調整している。飲水の時間を設け、できるだけ水分摂取していただけるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ずつ洗面所へ誘導し口腔ケアを行なっている。口腔内の状況に応じて、スポンジブラシを使用する場合もある。義歯の方は夕食後洗浄液につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちが落ち着かなくなったり、尿意が解かられている方は声かけしてトイレ誘導する。できる限り自立できるよう、排泄チェックし各々の排泄パターンを把握するよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分にとっていたり、繊維質の多い食材を取り入れたり、軽い体操を行ない便秘の予防に取り組んでいる。排泄チェックを行い、個人個人のリズムを把握する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分でできる所まではやっていただき、手の届かない部分は支援する。夏場や失禁等で入浴を希望される時には曜日や時間を変更するなどして、ゆっくり入浴できるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間の流れに合わせ、居室内・身の回りに気を配っている。気温や湿度の変化や服装などを考慮し気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を内服されているのか把握する為、スタッフも日頃から内服薬説明書を確認している。セット時や介助時に誤薬が起きないように、チェック体制を2重、3重にして気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を把握し、みんなで歌を唄ったり、折り紙や塗り絵をされたりと強制せず、本人のしたい事をしていただく。天気の良い日は散歩や外気欲をする事もある。縫い物、食事の準備、洗濯物たたみなども声をかけて促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ入居者の希望を尊重し支援する。週1回交代のドライブでは買い物や、思い出の場所にも出掛けている。行政の方や運営推進会議で佐世保の行事を教えてください参考にしてはいる。季節の花を見たり、地域の夏祭りにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に1回、金銭の内容を家族に報告する。希望される方については買い物時にお金を所持していただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はできるだけ本人に取り次ぎ出ている。手紙の返事を書く事は困難だが、家族からの手紙はとても喜ばれ心の支えになられている。内容を読み聞かせ、部屋に飾り家族の存在と絆を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁やボードは季節を感じられるように飾り付けをしている。天窓は布カーテンにより日差しを調整し、居室出入り口はドアの代わりに落ち着いたあるカーテンを使用して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは仲の良い入居者同士で談笑されたり、座敷のスペースでは新聞や雑誌を読まれたりと各々自分に合った居場所を工夫されゆったりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にあらかた必要な物は自宅より持ってきていただいて少しでも違和感をなくし生活ができるよう支援している。入居後必要な物があれば家族に相談して用意してもらったり生活感が出るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事は自立していただき、危険性がある場合はしっかり見守って対応している。できる事やわかる事が減ってきてても安心して生活が維持できるよう工夫しながら支援している。		